

「使用上の注意」改訂のお知らせ

解熱鎮痛消炎剤・川崎病用剤
 日本薬局方 アスピリン
アスピリン「日医工」

製造販売元 日医工株式会社
 富山市総曲輪1丁目6番21

この度、上記製品において、「使用上の注意」の一部を改訂（下線部）しましたので、お知らせ申し上げます。今後の弊社製品のご使用に際しましては、下記内容をご高覧くださいますようお願い申し上げます。

<改訂内容> (..... : 自主改訂、 ~~~~~ : 削除箇所)

改訂後			改訂前		
3. 相互作用			3. 相互作用		
併用注意（併用に注意すること）			併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
省略（変更なし）			省略		
糖尿病用剤 ヒトインスリン等	省略（変更なし）		糖尿病用剤 ヒトインスリン トルブタミド等	省略	
省略（変更なし）			省略		
<small>非ステロイド系解熱鎮痛消炎剤</small> オキシカム系消炎鎮痛剤 ピロキシカム等	両剤又は一方の薬剤の副作用の発現頻度を増加させ、消化性潰瘍、胃腸出血の発現が高まるおそれがある。	両剤ともにプロスタグランジン生合成阻害作用を有するためと考えられている。	<small>非ステロイド系解熱鎮痛消炎剤</small> オキシカム系消炎鎮痛剤 ピロキシカム等	両剤又は一方の薬剤の副作用の発現頻度を増加させるおそれがある。	機序不明。
省略（変更なし）			省略		
β遮断剤 プロプラノロール塩酸塩等	降圧作用が減弱することがある。	本剤がプロスタグランジン生合成を抑制することにより、プロスタグランジンを介した降圧効果を減弱させる。	β遮断剤 プロプラノロール塩酸塩等 アンジオテンシン変換酵素阻害剤 カプトプリル等	降圧作用が減弱することがある。	本剤がプロスタグランジン生合成を抑制することにより、プロスタグランジンを介した降圧効果を減弱させる。
アンジオテンシン変換酵素阻害剤 カプトプリル等 アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害剤 サクビト rilバルサルタンナトリウム水和物 アンジオテンシンII受容体拮抗剤 バルサルタン等 直接的レニン阻害剤 アリスキレン	(1)降圧作用が減弱することがある。 (2)腎機能を悪化させるおそれがある。	(1)本剤がプロスタグランジン生合成を抑制することにより、プロスタグランジンを介した降圧効果を減弱させる。 (2)本剤の腎プロスタグランジン合成阻害作用により、腎血流量が低下するためと考えられる。	省略		
省略（変更なし）					
削除→			省略		
省略（変更なし）			ザフィルルカスト	ザフィルルカストの血漿中濃度が上昇することがある。	機序不明。
省略（変更なし）			省略		

<改訂理由>

- ・相互作用相手薬の添付文書との整合を図り、併用注意の項を改訂しました。
 - －オキシカム系消炎鎮痛剤及びアンジオテンシン変換酵素阻害剤について、臨床症状・措置方法及び機序・危険因子の記載を一部変更しました
 - －アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害剤、アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤、直接的レニン阻害剤を追記しました。
- ・トルブタミド（販売名：ヘキストラスチノン）及びザフィルルカスト（販売名：アコレート）は、すでに本邦での販売が中止されていることから、併用注意の項から削除しました。

<GS1 バーコード>

最新の注意事項等情報につきましては、添付文書閲覧アプリ「添文ナビ^{てんぶん}®」で下記 GS1 バーコードを読み取ることで、スマートフォンやタブレット端末でご覧いただけます。

なお、「添文ナビ^{てんぶん}®」アプリにつきましては、ご使用になれる端末に合わせて「App Store」または「Google Play」よりダウンロードしてください。

アスピリン「日医工」



(01)14987376597811

今回の【使用上の注意】の改訂内容につきましては、日本製薬団体連合会発行の「DRUG SAFETY UPDATE (DSU) 医薬品安全対策情報 No.323」(2024 年 1 月発行)に掲載の予定です。
また、改訂後の電子化された添付文書は医薬品医療機器総合機構ホームページ (<https://www.pmda.go.jp/>)
ならびに弊社ホームページ「医療関係者の皆さまへ」(<https://www.nichiiko.co.jp/medicine/>)に掲載致します。

アスピリン 23-044A